(4)

· *****

| 日本日本の一本の月間日 | 日本日本 東京三年

おんとする傾向あるは、吾人の

健手を駆け

外なりといるあるも、子は之を関牙に持ぐ

悶を蹈襲すべるあと是なり、人威は宗教家 家は各宗祖が布数上教育施薬を利用せし芳 が教育に從事志施樂を為すを以て其任務以

語を換へて之を言へは韓國布教

我が佛参家に宝て韓國に鋭意布教をな

韓國布教私見

班品生

螥

東京本在にあらず、地に家を具して以てなて教師する所なれど、其方はに現ては些か

では見せんとす、と人恐んで之と悲け。

するは人類の幸福を増進し適性利民の本分 が弘毅の爲めの手段として教育施築を利用 るの間なるものとなす。何となれば宗教家



年五十二世紀 年九 武光 權 韓 日五月一辰甲曆隆

本学のと称ではない。 一般行所、朝鮮日報社、なる古都のわれに対して吟情を限らす事が、 世界の表情にない。 一般行所、朝鮮日報社、なる古都のわれに対してい情を限らず事が、 一般行所、朝鮮日報社、なる古都のわれに対してい情を限らず事が、 一般である。 はたここうろう。まても見つふうけてよぶ、命にあるを思いて沙なからす思を焦したのなる古都のわれに對して特別、観ら事が(2)、れた若し健時の僕でつあたならば風光明編、2800、3800、1800、1800 地間の僕でつあたならば風光明編、2800、3800 地間の境があるしりを受くる速いた。2000 地間の境が、淡水やを勧う情報のである。1800 地間の場合人ですれてもして三十三間覚や、豊公原では、1800 は一般のである。1800 は、1800 になっています。

世本 権村 ほ 士 評 大の花 宝

を強いし、関多の街に なかけて、呼べと答ねの発こる がで、呼べと答ねの発こる がで、呼べと答ねの発こる がで、呼べと答ねの発こる 銳

が好い工夫があります、私も南の方に行くと作業者に困りてお出の様子ですが、私者信べれ 老僧の語 しの調子に乗ると誰とても讃慎の度を取りあの様な宗教家に對して極々普通の事柄をある、而し必ずもはなあの様な宗教になりて極々普通の事柄を であるけれど。

社れも何味だ・ 助良田の胸の中に、 を報でも無つたが見も角末時は二人世深で まして別れたのでよった、 冊良田は母娘を 洗して別れたのでよった、 冊良田は母娘を 洗しておれたのでよった、 冊良田は母娘を でを終るてはおないのだ、 冊良田は母娘を はない女であったと記聴してゐる面に可録 ででいなった。 一般ので、 冊良田は母娘を でいなった。 一般ので、 冊良田の ではないからであったさができて、 一般田の ではないからであったさができて、 一般田の ではないからであったさができて、 一般田の ないかってあった。 一般田の ではないからであったさができて、 一般田の ないがからであったさないからないできて、 で、は、一世民田の胸の中に残ってから、 別れたのでよった、世良田は母娘を 別れたのでよった、世良田は母娘を 別れたのでよった、世良田は母娘を がであつたと記述してゐる而といま であったと記述してゐる而といま には別に深い意味はないのだ。 れの言葉を叙する題のなかつが、 るた寒の前を通る時は共盛の美しできつたから、それが気に世良いないのでは、これが気に世良いなどの姿がない内に通り起さら

はない。 をはりの無がすしれずが を対し出づれば を対し、海の脚を がでし、海の脚を がでし、海の脚を

玄界の離るはされか 底知れれ、拾貳萬尺

情は未来の恐ろしい事を設備かせて続く他は未来の恐ろしい事を設備がままれた。 とれると、現まであるから。 に手縄を握らせたのであ

承右新 承合せられれり 本希望の方は本社營業部1就き

朝鮮日報社

老;

| 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 1905| | 19 是歌あるや、見よ彼の物質的文明のが馬た 家をして此等の事業に從はしめんとすると して不言實行以て著明なる好成蹟を示せ 况んや現今世界の趨勢は轉た数 敗傷汚行の緊傷を随伴するに か又廣島愛媛将経下の漁夫等る護海漁業と 恋らくは大分山口南縣下の資棚漁夫ならん さと約七八十年前のとにて其先鋒としては 朝鮮海に本邦人が出版を試みむらは今を 距 釜山飯 瀬 瀬 道 事館。調 査な

B) 15.5 囊

に非オや、

本の主義の ・と記しまである。 ・の手機を利力まや側が高さい。 ・と記しまである。 ・の手機を利力まである。 ・と記しまである。 ・の手機を利力まである。 ・と記しまである。 ・の手機を利力まである。 ・の手機を利力まである。 ・の手機を利力まである。 ・の手機を利力まである。 ・の手機を利力まである。 ・の一で、 ・ので、

新は通る。駅門の瀬戸 船は通る。駅門の瀬戸 新らしきだから 支以新 體 內務大臣

征途に上る健見を乗せし 亦 九山東武 (僧) * 、薫

明かせるとは出来るのである。その太い脚られた時はなのを見るのは那歳の二百二十頃とた時よりも嬉しいご世段出口思った。 でんちょう から はいいい 世段 はいい でんして十分時の後には持主は確馬と馬車には あってわるのではない、それよっ映のことを遭つてあるのではない、それよっ映のことを遭つてあるのではない、それよっ映のことを遭つておるのではない、それよっ映のことを遭つておるのではない、それよっ映のことを

は、大人と数如れの程之で斬ったのとはなして其字組の止めになってわってはなして其字組の止めになってわった。 またのであるこはなして関せた時に老のないとのであるこはなして関せた時に老のようない剣を敷布閣へ下 「了つた、見るのも恐ろしいと云つ

-69-

た西班牙の老僧である。

を叩いたものがある、他でもない前に云つ

で面したい

若怪新 ラ 木館湖

道鐵

車列 表開作發

唐三院勿

湯水潤紫 五九九九

五五四二

五五五四。五二二六

前八 往 **4**⊌ = 地震の一番

伊深永紫 统川同五

の対応で としょ MACO TAX 美風新 足離 江毛津村

ままし 成體天

献山安! **一 1 1 1 1 1 亚基斯** 五二つ

軍會水紅 浦 場谷原。 一方。

ととものか

彼方にら島

・戦さ9の暮れない内に通っ越さうプで見で騒け出さした、うれは山道

多山天武教员

列行政 **诗数出廊**徽

率安始水群 浦 登 場養與浦名

九九八。 一九九八。 二一五五千

`**y**'

-00**0**0

六五五五五。〇三二一〇七〇四三五

美內與萬金 教豆 江板兒里義

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一五四二五 五五四二五 七七七七七二 五四二十二

學伊沃维太 川院川着田

型型三三二。 -○三二五 九二九四○

九九九八八 叶三〇五二 丘三九四〇

数据金数 鳥。 官木山泉嶺

された。 ルミーニ四 ルニーエの

密檢濟慶

)○九九八 二五四三 -〇九〇五

液 所属。 五 所属。 五二★○ 一○ 上○五

東 明 明 東

相場に即

の為め滞後中なる全社主なる全女史は倉庫

配人鎌田正七郎氏の案内にて昨日本

十七旬六分五里

-70-

雜事



